

岡崎市美術博物館ニュース〈アルカディア〉

86
SPRING
2021

ARCADIA

OKAZAKI CITY MUSEUM NEWS



開館廿五周年、次を期す

特任館長 榊原 悟

平成八年（一九九六年）七月開館した岡崎市美術博物館は、本年、目出度くも廿五周年を迎えた。まことに慶ばしい限りだ。その間、一五七回の展覧会を開催、一一六万人以上の方がたのご来館があった。これもひとえに岡崎市民はじめ市当局、関係各位のご理解とご支援の賜ものと心より御礼申し上げる。

と同時に、開館当初、いまだ岡崎市美術博物館の存在さえ認知されていない中、展覧会を実現させていった代々の学芸員、館運営を支えた管理担当の職員の弛まぬ努力も忘れてはなるまい。言葉では言い尽くせない苦労もあっただろう。その尽力にも感謝したい。

しかしその甲斐もあってか、記憶に残る展覧会が少なくない。さしずめわたしにとって「大ザビエル展―来日四五〇周年 その生涯と南蛮文化の遺宝」（一九九九年）は、そんな一つである。天文十八年（一五四九）キリスト教布教のため来日したイスマニアの宣教師フランシスコ・ザビエル（一五〇六―一五五二）の事蹟を顕彰すると共に、それ以降、盛んになっていくヨーロッパ世界との交流の中から生まれた文物を網羅したもので、家康が生まれ活躍した時代の歴史と文化の検証を活動の基本とする当館が、いわば開くべくして開いた展覧会であろう。その流れから現在も当館最多の入館者数を誇る「カラヴァッジョ」展（二〇〇一年）も実現したのだろうし、扱った時代は下だが、「平賀源内展」（二〇〇四年）、「阿蘭陀とNIPPON」展（二〇一〇年）や「大鎖国展―江戸に咲いた異国の花」（二〇一六年）もそうだろう。

ただし、「大鎖国展」とそれ以外の展覧会では、後者が巡回展であったのに対し、前者が当館独自の企画であった点、大きな違いがある。全国から、と云うより世界から関連する優れた作品を借用し、各地の美術館・博物館で展示する―大規模な巡回展の魅力は言うまでもないが、岡崎の地から全国に向けて、長年調査研究してきた成果を発信する「独自の企画展の面白さも捨て難い。「大鎖国展」がまさしくそれで、全国からの来館者があったことは記憶に新しい。今後もそうした展覧会を企画したい。

だが、岡崎市美術博物館も、実はそうした展覧会を数多く開いてきた。思いつくままに上げてみると、

- 甲山焼の世界 1997
- 松平・徳川氏の神社 2000
- 田中吉政とその時代 2005
- 三河念仏の源流 2008
- 村山槐多の全貌 2011
- 家康の肖像と東照宮信仰 2017
- 矢作川―川と人の歴史 1999
- 天台のほとけ 2003
- 集人がゆく 2007
- 茶の湯の文明開化 2010
- 徳川四天王―本多忠勝と子孫たち 2012
- 鶴田卓池と三河の俳諧 2019

などである。いずれも岡崎と三河に係わるテーマを追究したもので、担当学芸員の日頃の地道な調査があったはずだ。刊行された図録は、今後、同じ問題を考える上での基本的文献となるに違いない。誇るべき大きな成果である。

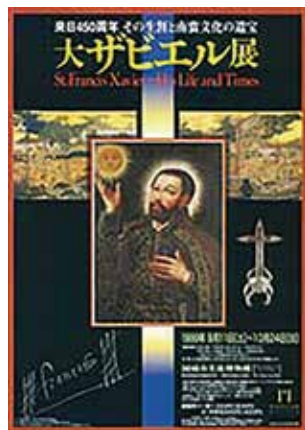
とは云え、今後ともこうした展覧会の開催が可能かどうか。コロナウィルスが猛威をふるう現況では問題も多い。現に昨春の緊急事態宣言下、当館でも展覧会の中止、延期を余儀なくされた。少なくとも大量動員を前提とする従来型の大規模巡回展は、曲がり角にきているのかも知れない。

そこで当館でも、何とか閉館だけは避けたいと、昨年「贅沢な対話」展を開催した。陳列する資料を極限まで減らすことで館内での密を避けると共に、鑑賞者が資料と一対一で対話するための空間と時間を確保するという、贅沢な展示を目差した。その開催の経緯、成果と反省、展望は担当学芸員が独白した「備忘としての「贅沢な対話」開催顛末」に譲るが、『岡崎市美術博物館研究紀要』才九号（二〇二一年）、そこで明らかとなった問題意識は、必ずしも今後の展示に活かされるに違いない。

幸いだったのは、その展覧会の企画、準備段階で当館の収蔵品を改めて見直すことが出来た点である。その結果、当館の収蔵品が、質的にも、その幅広さにおいても、優れた内容を持つことが判明した、と云う。まさしく開館以来、肅々と資料収集に努めてきた結果で、既にその成果の一部をまとめた展覧会さえも開催している（「長谷川湊二郎展」「土人形」展など）。今後とも収蔵資料の一層の充実を図るべきことを決意する。それが館の活動にとって大きな力になることが、今回の事態で身に沁みて分かったからである。

その収蔵品と、廿五年間の展覧会活動で培われた情報のネットワーク・人脈とを結びつけ、さらなる飛躍を期したい。取り上げるべきテーマは多く、魅力ある展覧会をお約束する。市民はじめ関係各位のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

コロナ禍にふれ合う袖のなつかしき 三猿
ご来館をお待ち申し上げます。



大ザビエル展 1999



家康と東照宮信仰 2017

眼の極楽35

花と鳥のかたち

特任館長 榊原悟



『椿に小禽図』 狩野雅楽助筆

(承前)問題は、もう一つある。しかもこちらは、この押絵貼屏風制作の秘密そのものにも深く係わる。その問題とは、本屏風各図に臨模的性格が拭いきれない点である。要するに各図には、お手本とした作品があったのではないか、それをほぼそのまま準えた—そんな疑いさえある。「梔子・萱草に鶯図」が、まさしくそうして制作されたことは既に述べた。

さらに山本英男氏は、「枇杷に緋連雀図」(右隻才五扇)が、ほとんど数写したのではないかと見られる、伝狩野雅楽助(狩野元信の弟)筆の『花鳥図』を見出した(『前田子爵・井伊子爵家御蔵器入札』目録収載 一九一九年 山本英男「花鳥図押絵貼屏風」作品解説 『狩野永徳』展図録 京都国立博物館 二〇〇七年)。

加えて本屏風を最初に紹介した狩野博幸氏も「錢葵に高麗鶯図」(左隻才三扇)に先行する作として、同じく伝雅楽助筆の『椿に小禽図』(図)を提示しているし、「鶏頭花に蜻蛉図」(右隻才四扇)の対向して飛ぶ蜻蛉や「凌霄花に鶯図」(左隻才五扇)の鶯にも図像情報があったという(狩野博幸「狩野永徳筆

花鳥図押絵貼屏風』『國華』一三〇二号 二〇〇四年)。

他にも個別のモチーフに限れば、梅に留まる鳩、大手毬の枝で毛づくろいする小禽、急降下する雲雀など、一門内の先行する作品の中に、その祖型とも云うべきかたちを、容易に見つけることができるだろう。むろん、そのかたちを永徳が知ったのも、粉本を通じてであるはずだ。それらを一筆々々丹念に描いた。それも対角線に沿って各モチーフを配置する、堅固で端正な構図のうちに—これが本図制作の秘密だろうか。だが、いずれにせよ、若き永徳にとって粉本が制作に大きな力となっていたことと、そうした粉本を狩野一門が豊かに蓄えていたことを見逃すべきではないだろう。

では肝心の虻は、「錢葵に高麗鶯図」に描かれた虻は、一体、何処から飛んで来たのか。「梔子・萱草に鶯図」の原図となつた伝趙昌筆本『梔子に鶯図団扇』にも、また、当の「錢葵に高麗鶯図」を描く際に参考にしたという『椿に小禽図』のいずれにも、虻は描かれていない。しかも、同じく『梔子に鶯図団扇』を原図に描かれた『梔子に小禽図』Pに虻を添えたのは永徳である。となれば、「錢葵に高麗鶯図」に虻を描いたのも、永徳その人、とみることに無理はない。むろん、その虻の図像情報のそもその淵源は常州草虫画にあったのだが。しかしその虻を、屏風の対向する二面に描かれた高麗鶯と鶯に見詰めさせる—この奇抜な構成が、永徳その人の奇知によることは、もはや疑うべくもない。

興味深いのは、この押絵貼屏風の制作年代だ。各図に捺された「州信」印の印影から、その制作は、これと同一印を捺した、あの上杉本『洛中洛外図屏風』を遡ると鑑識されている(狩野氏前掲論考)。二十歳前後の作である。むろんこの時代のこと、年齢からも既に元服も済ませていただろうから、絵師として独り立ちの活動をしていたのだろう。現に永禄八年(一五六五)二十三歳の時には足利義輝(一五三六〜一五六五)の命で、その当の上杉本の制作を果たしているからである。(黒田日出男著『謎解き洛中洛外図』岩波新書435 一九九六年)。とは云え、さらにこれを遡るとなれば、粉本を臨模するなどなお絵画修業を怠りなく続ける身でもあったに違いない。本屏風各図に先行作品からの図様の借用が著しいことや、その図様を丹念に写し取り、端正とは云え、やゝ堅固しい感さもある構図にまとめ上げたあたりに、これを描いた絵師の若き故の真摯さと云うか、融通のきかない真面目ささえ見ることが可能だと思ふのだが。狩野氏が指摘する通り、本図は、永徳若年期の力作と云うべきだろう。

嬉しいのは、その作に、時代を往く最新のモチーフ。虫を取上げてくれている点である。これを見出すには、若き柔軟な眼が必要なのかも知れない。そう云えば桃山のもう一人の巨匠等伯が虻を描いたのも、信春時代ではなかったか。しかも、青年永徳は、その虫(虻)を取上げるに、屏風の向かい合う画面に趣向を凝らした。



皆さまお待たせしました！

と言うのも、「岩合光昭写真展 どうぶつ家族／ねこ科」は昨年六月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期となってしまう、このたびようやく開催のはこびとなったのです。

この一年色々ありました。岩合展に限っても、印刷された数万枚のチラシを中止により処分するしかなくなっただけ、とても悲しい出来事でした。また延期して開催が決まっても、準備していただくのかの企画やイベントが、



中止や縮小せざるを得なくなりましたし、実現できたこともコロナ禍に翻弄され続けました（この原稿を出したあとも大きな変更があるのでは…と内心ヒヤヒヤです）。
もともと、皆さまの仕事や生活も同じようだったことと思います。物事が思うように進められなかったり、遠方の家族に会うのを我慢しなければならなかったり、逆に在宅仕事のために家族と顔を合わせる時間が長くなりケンカが増えたり…。生活や家族のかたちに変化が求められるこのご時勢のなか、今回「どうぶつ家族」を開催することは、これまで以上に意義のあることのように思います。

「どうぶつ家族」では、アフリカのサバンナから、極地にくらすペンギンやアザラシ、中止や縮小せざるを得なくなりましたし、実現できたこともコロナ禍に翻弄され続けました（この原稿を出したあとも大きな変更があるのでは…と内心ヒヤヒヤです）。
もともと、皆さまの仕事や生活も同じようだったことと思います。物事が思うように進められなかったり、遠方の家族に会うのを我慢しなければならなかったり、逆に在宅仕事のために家族と顔を合わせる時間が長くなりケンカが増えたり…。生活や家族のかたちに変化が求められるこのご時勢のなか、今回「どうぶつ家族」を開催することは、これまで以上に意義のあることのように思います。



さらにはハワイ沖のザトウクジラまで、四〇種類以上のどうぶつの写真約一五〇点が並びます。彼らの家族のかたちはさまざまです。群れをなす大家族もあれば、母と子二匹だけの家族もあります。また産まれた瞬間から自立することが求められる、ウミガメやシマウマなどのどうぶつがいる一方で、パンダやカンガルーのように、はかなく小さく産まれてくるどうぶつもいます。彼らは彼ら自身の生態や置かれた自然環境の中で、あるがままに生きています。そのすがたは、窮屈な生き方を強いられる今の私たちに、何かを教えてくれるかのようです。

そして、あるがままのすがたを写した写真を見ていると、ふと、岩合さんはこのあるがままを撮るために、どれだけの根気と時間をかけているのだろうと考えさせられます。身近なねこの方がイメージも湧きやすいと思いますので、「ねこ科」の作品を見てみましょうか。冒頭の二匹の子ねこが寄り添った作品、ねこを撮ろうとした方ならきつと「こんなの撮れるなんてすごい」と思うことでしょう。気まぐれで警戒心の強いねこを素人の私たちが撮ろうとしても、ねこたちは顔をそむけるか、逆にカメラに寄って来たりしてしまいます。一体

企画展

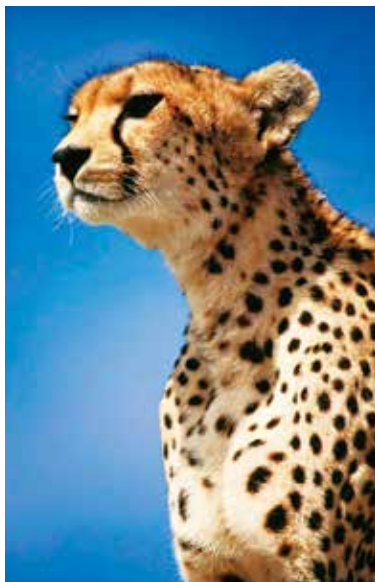
岩合光昭写真展

どうぶつ家族／ねこ科

湯谷 翔悟

会期：令和3年4月3日～5月16日

EXHIBITION



写真はすべて©Mitsuaki Iwago

どうやって撮影したのか……。こうした絵に描いたような構図に座らせる秘策を岩合さんに教えてほしいくらいです。さらに「ねこ科」は、いずれも幅一五〇〜一八〇センチの大型作品であるにもかかわらず、どの作品もピンボケやブレが見られません。プロなら当然だと怒られそうですが、あるがままの一瞬を切り取るための技術や労力に改めて気づくことができるのは、大型作品ならではです。

また「ねこ科」は数ある岩合さんの企画の中で、初めての屋外写真展です。写真の中の風景と実際の美博周辺の環境がリンクして、あたかも自分が写真の中に入り込んだような感覚になるだけでなく、晴れの日雨の日、早朝や夕暮れ時と、周りの自然に影響を受けたとき、作品の見え方がどう変わるのかも見どころの一つです。

「自然と調和するミュージアム」がコンセプトのひとつである当館だからこそできる、ほかとは一味違った岩合光昭写真展となるはず。あるがままに生きることが簡単ではない現在ですが、どうぶつたちのすがたを写したこの写真展が、皆さまの生活における一服の清涼剤となれば幸いです。

なお本展は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、土日祝日は事前予約制といたします。前日までに当館ホームページからのお申込みが必要です。ご迷惑をおかけして大変申し訳ございませんが、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

EVENT INFORMATION

関連イベント情報

岩合光昭さんトーク & サイン会

令和3年 5月1日(土) / ①11時~12時30分 ②14時~15時30分

場所 | 岡崎中央総合公園 第1 錬成道場

定員 | 各回200名

申込 | 4月6日(火)メ切(必着)

※サインは当日イベント会場でご購入いただいた書籍のみ行います(1人3冊まで)。

講演会

園長さんの講演会 いのち 生命をつなぐ

令和3年 5月8日(土) 午後2時から

講師 | 黒邊雅実氏(名古屋市東山動植物園 動物園長)

場所 | 当館1階セミナールーム

定員 | 35名

申込 | 4月13日(火)メ切(必着) ※聴講無料

ギャラリー・トーク

飼育員さんのギャラリー・トーク

令和3年 4月25日(日) 午後2時から

講師 | 山西聡氏・鈴木政昭氏(岡崎市東公園動物園飼育員)

場所 | 当館1階展示室 ※当日の観覧チケットが必要です

定員 | 20名

申込 | 4月13日(火)メ切(必着)

*イベントは全て事前申込制です。当館HPまたは往復はがきでお申込みいただけます。

*申込み詳細は、展覧会チラシまたは当館ホームページをご確認ください。

*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントが中止または変更となる場合があります。

【重要】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「どうぶつ家族」の入場は、土日祝日に限り日時指定制(web予約)を導入します。当館HPにて、事前にご予約ください。

開館25周年記念

渡辺省亭 ― 欧米を魅了した花鳥画 ―

会期：令和3年5月29日～7月11日

酒井 明日香



渡辺省亭《春野鳩之図》絹本着色 一幅 加島美術館蔵

渡辺省亭という画家をご存知でしょうか？明治から大正にかけて活躍した花鳥画の名手で、日本画の伝統に洋風を加えた表現が国内外で高く評価されました。欧米では人気が高いものの日本国内ではこれまで知名度が低く、近年じわじわと注目が高まっている日本画家です。知られざる日本画家である渡辺省亭の全画業を、初めて明らかにするのが本展覧会です。東京藝術大学美術館を皮切りに巡回する本展は注目度も高く、雑誌の「今年注目の展覧会」特集にも度々取り上げていただきました。次第に画壇と距離をおいて市井の画家を貴いするため、展覧会で紹介される機会が少なくなり忘れられた画家となった省亭ですが、かつて辻惟雄『奇想の系譜』で伊藤若冲が一躍脚光を浴びたように、本展が渡辺省亭ブームの火付け役になるかもしれません。

そんな人気を予感させる、省亭のここがすごい！ポイントはたくさんあります。日本画家として初めて渡欧、印象派の巨匠と交流を持った省亭は、美術関係者が招かれた晩餐会にてその場で絵を描き、高い技術で参加者を大いに驚かせたといえます。ちなみにこのときの作品は印象派を代表する画家のひとり、ドガに贈られています。また国内では、無線七宝を開発した瀧川惣助と協働し、国宝の迎賓館赤坂離宮（旧東宮御所）花鳥の間・小宴の間に飾られている三十二面の七宝額の原画を制作しました。国家の威信をかけた大建築の装飾に、大学教授のような権威ある画家ではなく、何の肩書もない省亭の作品が採用されたのは「お役所仕事」からしたら驚くべきことです。それだけ省亭の原画が高く評価された証でしょう。なによりこうした知識がなくても、色とりどりの草花や、生き

生きとして柔らかさを感じさせる「もふもふ」な鳥たちは見ているだけで楽しくなります。そんな省亭の作品をじっくり堪能していただきたいところですが、出品作品の大半は日本画で、光や温湿度の変化に特に敏感で劣化しやすい作品です。そのため、照明は暗めに設定し、出品作品のおよそ三分の一が前後期（一部例外あり）で入れ替わります。作品保護のためご理解を賜りますようお願いいたします。前期も後期も見に行きます！という方は、本展覧会限定のパスポート「リミパス」をご活用ください。お得な金額で展覧会を何度でもお楽しみいただけます。観る人を虜にする省亭の花鳥画の世界で、みなさまのご来館をお待ちしております。

INFORMATION

令和3年度 スケジュール 開館25周年を迎えました

- 岩合光昭写真展 どうぶつ家族／ねこ科 4/3(土) ▶ 5/16(日)
- 渡辺省亭 ― 欧米を魅了した花鳥画 ― 5/29(土) ▶ 7/11(日)
- 水木しげる 魂の漫画展 7/31(土) ▶ 9/26(日)
- 至宝 一燦めく岡崎の文化財 10/9(土) ▶ 12/19(日)
- コレクション100選 2022/1/22(土) ▶ 3/13(日)

展示替え有

展示替え有

カワイイ！動物たちが大集合。
若冲の次は省亭がアツい！
振り返ったら、アレがいる。
岡崎の良いもの、くるよ。
子ども大人も、楽しく鑑賞！



★館内プチ展示も開催予定。お楽しみに！ ※都合により展覧会の内容及び会期を変更する場合があります。

「棺車」明治時代（左）
ルネ・マグリット「マザーグース」
一九六八年（下）



近年街で霊柩車を見なくなつた。正確に言うと、社寺仏閣や仏壇を思わせる装飾を施した宮型霊柩車と呼ばれる自動車を見るのが極端に減つた。霊柩車は遺体を葬儀場から火葬場まで運ぶ車である。しかし霊柩車を見なくなつたといつて、近年突然人が死なくなつたわけではないので、宮型霊柩車ではない普通車タイプの霊柩車は日々まちを静かに走っているのだらう。調べてみると宮型霊柩車が減つた理由は、葬儀の低コスト化や、周囲に知られずにひっそりと葬送を行う人が増えたからであるようだ。

霊柩自動車が使われはじめたのは大正時代の前半期である。日本では、大勢の人が遺体を運ぶ行列に参列する葬列という葬送が明治期にスベクタクル化した。葬列では人が担ぐ輿によって遺体が運ばれたのだが、近代化により葬儀が簡略化され葬列が廃止になり、それを生活の糧にしてきた葬儀屋のアイデアにより宮型霊柩車が導入された。収蔵品にある「棺車」は宮型霊柩車が登場する半世紀前の明治初期から使用されていた。これは輿での葬列ができない低所得世帯が使用していた「貸車」であったそうである。輿は一度使つたら解体されたが、棺車は何度も使うことを前提としたためデコラティブな意匠が施された。その点において棺車は宮型霊柩車の前身であると言える。宮型の霊柩車はまち中でよく目立つた。霊柩車を見ることは、私たちにとつて日常に死が隣接していることを考える経験であった。自分が呑気に生活しているこの瞬間にも、命を亡くした人

と家族や知人を亡くした人がいる、そしてそれは次の瞬間自分にも起こり得ることである、と。宮型霊柩車を見る機会が減ることは、私たちにとつて「死」について考える機会が減ることであり、それはいわばその分だけ「死」のリアリティが抽象化されることである。「生」のリアリティもまた抽象化されている。収蔵品である「マザーグース」は森の中にいる男たちが描かれている。彼らの身体は部分的に森の背景に隠れており、木と人物との前後関係が曖昧になっている。彼らは森にいるのか、はたまた別の場所にいるのか、そもそも実在するのか不明確である。本作はシュルレアリスムの画家ルネ・マグリットが一九六八年に制作した作品である。シュルレアリスムの芸術家たちは現実内に在する「真の現実」を芸術に昇華することで心の自由の在処を見出すとした。

本作は現代に於けるネット社会において、現実ではないネット上の様々なバーチャル空間に偏在する私たちの在り様を描いているようにも見える。これはシュルレアリスムの画家たちのイメージした「超現実」に現代が追いついた、という見方もできるかもしれない。いづれにせよ、私たちがバーチャルでのコミュニケーションに時間を費やしただけ、身体的なりアリティとしての現実と向き合う機会が減っているのだ。それはその分だけ動物的な「生」の実感が欠如していることを意味しているといえる。そしてテクノロジーはますますリアルとバーチャルの融合する未来に向かっていくのだ。



ところで、霊柩車を見たときは親指を隠さなければいけないという習慣が入り出すという伝承によるものという考えによるものであるという。親の死に目に会えなくなる、という教えもこの伝承から派生しているらしい。宮型霊柩車が減つたことで、私たちが親指を隠す機会もまた減つた。そして隠す必要のない親指は、現代ではネット上で「いいね!」と共感を示すシンボルとなつている。バーチャルでの共感もまた、孤立することを避けるための生きる知恵である。どちらも自分を守るための術であるという点では同じなのかもしれない。

SHOP INFORMATION



寅年、寅の日、寅の刻に生まれた徳川家康の伝説にちなむ愛知県の玩具「寅童子」。後の家康の母となる於大の方は、強くたくましい男子が生まれることを願い鳳来寺へお参りし薬師如来に祈りました。
不思議なことに家康が生まれると、鳳来寺の薬師如来を護る十二神将像のうち、真達羅大将の像が忽然と消えてしまったのです。
十二神将は薬師如来を十二の方角と時刻からそれぞれ護る上で、真達羅大将は寅童子とも呼ばれ、寅の方角と寅の刻を担当していました。
元和2年(1616)年、75歳で家康が亡くなると、いつの間にか真達羅大将の像は元あった場所に戻っており、家康公は寅童子の化身とされるようになりました。
この逸話をもとに、昭和30(1955)年頃に作られるようになった玩具です。数多くの挫折を乗り越え天下を取った七転び八起きの家康の人生に重ね、起き上がり小法師に寅の絵付けがしてあります。

営業時間 10:00 - 17:00
定休日 月曜日(祝日の場合は営業。翌火曜日が振替定休日となります)
TEL 0564-83-5952
FAX 0564-83-5953
MAIL yagura@b-soup.com
URL <https://www.facebook.com/museumshop.yagura>

YOUR TABLE

岡崎市美術館併設のカフェレストラン『YOUR TABLE』。ガラス張りの店内には太陽の光がいっぱい入り、お洒落で開放的な空間が広がります。ランチ時には景色を愉しみながらお食事を楽しむことができます。展示毎にシェフ考案のコラボメニューも登場。カフェタイムにはやけケーキセットや軽食などを販売中。



営業時間 11:00~21:30
定休日 月曜日(祝日の場合は営業。翌火曜日が振替定休日となります)
LUNCH 11:00 - 14:30 (L.O.14:00)
TEA 14:30 - 17:00 (L.O.16:00)
DINNER 17:30 - 21:30 (L.O.20:30)
TEL 0564-28-0141
URL <https://your-table.owst.jp>

YOUSED TO BE



「岡崎小唄」と「五万石」
「五万石でも岡崎様はお城下まで船が着く…」のフレーズでお馴染みの「五万石」をアレンジして作られた「岡崎小唄」をご存じでしょうか。この曲は、大正十五年、三河日報社による支援のもと、メロディは「シャボン玉」「ゴンドラの唄」などでお馴染みの中山晋平、補詩は「七つの子」「赤い靴」などでお馴染みの野口雨情というビッグネームにより作られました。レコードにもなり、岡崎芸妓連中が吹き込んだものがピクターから販売されてきました。近代化の波の中で古い岡崎の面影が亡びてゆく様を惜しんで作られたとか。今や「岡崎小唄」が作られた時代さえ遠い昔のこととなってしまい、知る人は多くないようです。
オリジナルの節回しは歴史の中で途切れてしまったという「五万石」。もとは菅生川と矢作川を行き来する中で歌われた舟唄だったそうです。現代でいえばドライヴのBGMといったところでしょうか。我々がメロディをつけてみても面白いかもしれませんね。



開館時間

午前10時～午後5時

※最終の入場は閉館時間の30分前まで

休館日

月曜日(祝日に該当する場合は、その翌日以後休日でない)
年末年始 ※展示替えのため臨時休館する事があります。

<https://www.city.okazaki.lg.jp/museum>

ARCADIA

OKAZAKI CITY
MUSEUM
NEWS

【岡崎市美術館ニュース/アルカディア】 第86号 2021年4月発行
編集・発行 岡崎市美術館(マインドスケープ・ミュージアム)
〒444-0002 愛知県岡崎市高隆寺町字跡1番地 岡崎中央総合公園内
TEL 0564-28-5000 (代表)